

感染症情報 7月29日～8月4日

府下小児科197医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	699例(堺市	31例)
②手足口病	679例(堺市	57例)
③ヘルパンギーナ	335例(堺市	20例)
④溶連菌感染症	277例(堺市	35例)
⑤RSウイルス感染症	224例(堺市	38例)

府下インフルエンザ定点301医療機関(堺市29)から

インフルエンザ	17例(堺市	0例)
---------	--------	-----

感染症報告数は前週比12.1%減の2,734件であった。

報告数の第1位は感染性胃腸炎、以下手足口病、ヘルパンギーナ、溶連菌感染症、RSウイルス感染症の順であった。

感染性胃腸炎は府下で前週と比較して15%減、堺市では14%減であった。手足口病は府下で24%減、堺市で27%増であった。ヘルパンギーナは府下で12%減、堺市で27例→20例であった。溶連菌感染症は府下で20%減、堺市で37例→35例であった。RSウイルス感染症が第5位となり、府下で49%増、堺市で14例→38例(2.7倍)であった。堺市では定点当たり2.00となっていて、流行が懸念される。

麻疹や風疹の報告はなかった。